

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1274000213		
法人名	特定非営利活動法人おたがいさま		
事業所名	グループホームおたがいさま		
所在地	千葉県富里市御料694番地3		
自己評価作成日	令和5年2月27日	評価結果市町村受理日	令和6年3月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 2/index.php?action_kouhyou_detail_007_kani=true&JigyosyoCd=12

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ライフサポート楽楽		
所在地	千葉県旭市口1004-17		
訪問調査日	令和6年3月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

2階建ての建物で入居者数は各階6名ずつの小さなグループホームです。入居者様お一人お一人の「あたりまえの変わらない暮らし」を守るために、職員は皆で協力して、その瞬間にできる最大限の支援を心がけています。また、ご家族やご友人との交流を保ちながら、「自分らしく」イキイキと自信をもって生活していくためのお手伝いをいたします。職員全員が情報を共有できるように記録物のIT化を実施しており、ご家族が訪問されたときにはケース記録を閲覧していただき、日ごろの様子を知っていただけるように心がけています。日常生活においては、特に食事面に配慮しており、毎食ごとに手作りの料理を職員入居者協力しながらおこなっております。職員のキャリア、スキルアップとして、研修動画ネット配信サービスによる研修の受講や資格取得(介護福祉士等)に向けた法人支援を行っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1ユニット6名の少人数ということで、より家庭的な雰囲気である。業務LINEで情報共有をしている。家族には月1回担当者が手書きの手紙を書いて送っている。写真は送付せず、面会に来た時に渡すようにして家族の面会機会を自然に増やすようにしている。面会は少しずつだが、コロナ禍以前の状況に戻りつつある。職員のスキルアップも計画的に行い、全てに職員が有資格者である面は評価が高く今年も介護福祉士を合格を目指しており、管理者と現場職員の関係も近く、考えも同じ方向を向いており、関係も良好である。施設内の生活の居住環境も少しづつリホームを行い、入居者は生活しやすく、職員は働きやすい様取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所入り口に掲示されており、地域に開かれたグループホームを目指し、事業規模も拡大し、職員一人ひとりが日々実践に繋げている。おたがいさまの理念の実践に向け、職員全員で会議の場で話し合っている。	職員は有資格者が多く、地域に開かれたグループホームを目指し、職員全員で話し合い、職員一人ひとりが日々の実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	福祉祭り等、行事に参加している。自治会や商工会等の加入で更なる交流を続けている。	長引いたコロナ禍で、行事や活動に中止や延期等の制限が徐々にもどりに戻りつつある中、前の様に全員での活動でなく、小グループでの交流を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居者と一緒に散歩しながら、ご近所の方とあいさつなどを交わす。近くを歩いている入居者に声をかけてくれたり、地域の方の理解もある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	長引くコロナ禍で、実施されていませんが状況等は文面にて2ヶ月1回提出しています。電話での対応も密に行っている。	まだ、コロナやインフルエンザ感染予防を取りながら、少しずつもどりに戻るよう意見を聞きながら対応している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の文面にてグループホームの状況について報告している。市担当者とは連携が取れており、空き情報等の連絡も密に行っている。	毎月初めに行政に入居者名簿の提出時、担当職員との情報交換やメール等のやり取りも密に行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていない。マニュアルは作成されており、内部研修を定期的に行っている。身体拘束に対して、1回/月の職員の会議の場で話し合いを設けている。	マニュアルは作成されており、身体拘束は行っていない。定期的に内部研修や職員会議等でも話し合いを行い身体拘束を行わないケアに努めている。	各種マニュアルは定期的に見直しされることを期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止について、1回/月の職員の会議の場で話し合いを設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ズームによる外部研修や研修動画ネット配信サービスによる研修を受講している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に契約内容を説明し、納得いただいたうえで同意を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月の請求書を送る際に、直筆でお手紙を添え、近況を伝えている。一部の方に限られる状況があるが、面会時等、意見を聞くようにしている。	コロナの移行後も感染症対策を取りながら、家族との面談や外出、外食等を行っている。電話連絡、面会時は意見や要望を聞きサービスの向上に繋げている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月行う定例の会議を設けている。管理者会議等、運営に関する事項も職員一人ひとりが聞く機会を設けている。	意見や提案がしやすい環境が出来ている。施設内で介護福祉士を目指す勉強会も行われ、職員一人ひとりの意見を聞く機会も設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	事業所の規定に基づき評価している。現在は、職員の要望があれば、外部研修等へ参加を実施する。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ズームによる外部研修への参加や研修動画ネット配信サービスによる研修を受講している。研修内容は、会議等で報告及び、研修報告書を通して皆が知識を深めるように取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福祉祭り等、行事に参加し、他事業所との交流を深めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日頃の会話や行動など些細なことに注意を払い安心して生活できるよう配慮している。また、家族との手紙で交流することで解決できている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	インテークの段階では、安心して過ごしていただけるよう配慮している。入所後も、定期的に日々のご様子を綴った手紙や写真を添えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族会議や面会にきた際に家族本人と職員の話し合いを通して必要とする支援を見極め対応に努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は本人の出来る事を考察し、日常生活において家事、炊事、洗濯等共に参加できるように努めている。又自発的に行動してくれるような信頼関係、環境作りに努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来た際や、手紙等で、家族へ本人の様子を伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域に根差した施設を目指しているので、できる限り馴染みの関係を大切にしている。本人行きつけのお店や、思い出の場所等への散歩など。	地域のスーパーマーケットやデイサービスに来られる利用者と交流、車でお花見や近所の散歩での挨拶と出来るだけ地域との関わりを持てるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の共通の趣味や話題を見つけ一緒にいたり、コミュニケーションをとれるよう気の合う利用者の関係を把握し孤立しないような環境づくりに努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了した後もご家族からお手紙をいただいたり、必要に応じてご相談に乗るなど、フォローを行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者一人ひとりに担当職員を配置し、ご本人の気持ちや希望など把握するように努めている。また会議等を通して職員全体で支援できるようにしている。意思表示出来ない人でも、生活歴や家族の気持ち、希望を取り入れて穏やかに過ごしていただけるように配慮している。	利用者一人ひとりに担当者が配置され、思いや希望の把握に努め、会議等で全員で話し合い全職員が支援できるよう共有が図られ、家族への毎月の報告で普段の写真や状況を報告している。。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者一人ひとりの生活スタイルや価値感が異なるため、ご本人の暮らし方や、ご家族の気持ちを大切に、なるべく生活環境を変えないよう配慮している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	会議等を通じて、皆で入居者お一人おひとりの介護の方向性について話し合い、意見やアイデアを出し合っている。必要に応じて随時ケアプランの内容を変更している。	利用者の心身状態の変化に応じ、ケアのあり方について、本人の思いや家族の希望を伺い、医療関係者・職員、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ちょっとした出来事でも、記録するようにしている。日々の取り組みから、状況にあわせた支援展開ができるように心がけている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	可能な範囲の中でその人に沿った工夫を心がけて支援するよう取り組んでいる。 例:食事メニューの変更や、近場ではあるが散歩等への外出支援など		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散歩・買い物はもちろんのこと、日常生活でできること(掃除や、洗濯干し)など、意欲を持って取り組んでいただけるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	看護師と連携を図り、かかりつけ医に定期受診している。	協力医により、定期的に往診が行われ全員が受診し、結果は家族にも報告されている。専門医には家族同行での受診もされている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調の変化など心配事がある時、看護師とは密に連携をとり情報を共有している。看護師不在の時も電話にて指示が仰げる体制をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院前の状態など必要な情報をまとめ病院や家族に報告している。入院中の入居者へ面会に行きその時の様子や退院の見通しなど情報交換に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	会議を通して、ホームでの対応が可能であるか本人、家族の思いも含めて話し合いをしている。本人の様子等の記録をもとに、医療機関に相談している。	契約時、本人、家族と話し合い、事業所で作る支援等十分に説明し、事前確認書に記入を頂いている。日々の様子で早めに医師に相談し家族と話し合いで対応を決定して頂きます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	普通救命救急講習を受講し、初期対応ができるように心がけている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に夜間想定避難訓練を実施し緊急時に備えている。	地震に伴う火災や夜間時の火災の通報避難訓練を入居者参加で実施している。利用者、スタッフの3日分備蓄リスト、地域の方に災害時の協力をお願いしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員との相性や、言葉使いで感じ方受け止め方が変わってしまう事を踏まえて、その時の状況に応じて対応している。	「プライバシー保護規定」を事務室に掲示し研修も行っている。普段から言葉遣いやマナー研修行い、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の気持ちや希望を一番に考え、選択肢がある時は本人に決めてもらうように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	時に優先順位が職員の都合になってしまう事があるが、職員間で話し合いを持ちできるかぎり利用者様のやりたいことが反映されるよう見直しをしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人、ご家族と相談しながら、できる限り希望を取り入れていくようにしている。季節にあった洋服好みの洋服を着ていただいている。(衣替え)		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご本人か、食事を摂りやすいよう、食器の大きさや形、食事の形態について、職員間でどうすれば良いか話し合いながら行っている。人気の高いお刺身や天ぷら等の提供や、誕生日の時はお赤飯を炊いてお祝いしている。	食材・献立レシピが事業者から届けられ、職員が調理して提供されている。準備や後片付け等は出来る方はお手伝いを一緒に行っている。ご近所から頂いた野菜も一緒に調理して提供されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量や食事量など、日々の様子を記録に残している。主治医からの診断結果を受け、一人ひとりの状態を把握し、必要な栄養、水分摂取を心かける。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。入れ歯洗浄、歯磨き等一人ひとり能力に応じた支援を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者一人ひとりに応じた排泄パターンを職員は把握している。また、トイレで用を足すなど、できる限り自然な形でケアが行えるよう職員一人ひとりが自覚している。	個々の排泄パターンを把握するよう努めている。トイレ誘導に心掛け、夜間でもトイレでの排泄やポータブルトイレへの声かけ誘導に努めオムツの使用量の削減に繋げている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然な排便が促せるように、食事や活動(体を動かす、体操)を取り入れている。排泄リズムを把握するため記録をつけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者の体調や気持ちを考慮して、入浴を勧めている。	本人の希望や体調に応じシャワー欲や清拭も行い、本人が出来る場所(洗身・洗髪)して頂くよう見守り、必要に応じて声かけや介助を行っている。入浴剤や季節の入浴を楽しむ工夫もしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間 休んでいただけるよう日中の活動を豊かにし安眠を促すようにしている。気持ちが高ぶって休めないときは、ホットミルクなどを飲みながらリビングで過ごしていただく等の配慮を心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬内容一覧を作成し、薬の副作用等を理解するように努めている。誤薬がないように注意を払っている。毎食ごとに分包し服薬確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節行事やテレビ新聞等から、話題を提示し、入居者一人ひとりの個性を活かせるよう取り組んでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	お弁当を持っての外出や近隣のスーパーのフードコートでおやつを食べたり等、外出する機会が増えている。	コロナの移行後も、感染症対策を取りながらドライブや外出に出かけるようにしている。家族と一緒に墓参りや外出に行かれる方もいる。コロナ前に感染症対策を取りながら、少しずつ戻りつつある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一部の入居者について、現金を預かっている。買い物がある場合、一緒に買い物へ行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて電話をかけたリ、ご家族からの電話を取り次ぐ等を行っている。年賀状などご家族へ向けた季節のあいさつを入居者もと一緒に行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者と季節に合わせて掲示物を作って飾っている。利用者が好きな歌手などの写真も飾るなどしている。	季節感を感じる装飾で、テーブルが配置され、利用者が思い思いにくつろげる場所になっている。装飾も季節ごとに取り替えられている。キッチンからの食事の準備の音や香りも感じ取れる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々の部屋で思い思いに過ごす事もあれば、リビングに出てきてテレビを見たり、話をするなど自由に過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていた物を置いている。衣替えは家族や職員が定期的に行っており、部屋の換気やシーツ交換・布団干しは定期的に行いチェックしている。	居室は今まで使い慣れた家具等持ち込まれ、家族と一緒に写真やすきな物を飾ったり、居心地よく過ごせるよう空間になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	身体や認知機能を踏まえ、居室の選定、室内の環境づくりを行い、入居者一人一人の残存機能を活用できるような声掛けや見守りを中心に支援している。		